チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2016年5月NO.40

SMILES

https://www.childfund.or.jp

特集

子どもの将来を変える ご支援でできること

ChildFund Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

子どもの将来を変える ご支援でできること

子どもの成長を長期的に支えるスポンサーシップ・プログラムは、子どもの人生を大きく変えることができます。ご支援を最大限に活かして、自らの人生を切り開いたレジルのストーリーをお届けします。

レジル（左端）と家族

大学の卒業を控えたレジルは、12年間ご支援くださったスポンサーに宛てて手紙を書きました。

私の目の前には明るい未来が開かれています。貧しさゆえに、学校に行けない子どもたちも大勢います。誰もが大学で勉強する機会を与えられるわけではありません。その中で、私の教育を支えてくださったことに、心から感謝しています。

もうすぐ私は大学を卒業して、夢を叶えることができます。家族を助けるという夢です。家族のために家を建てたいと思います。家族の生活を楽にしたいと思います。これから、その夢を叶えていきます。そして、それができるのも、私を支えてくださった方がいたからです。

貧しい家庭と、努力家のレジル

レジルがスポンサーシップ・プログラムの支援を受けるチャイルドになったのは、小学4年生の10歳の時です。父親はトラックの運転手をしていましたが、仕事は不定期で、家族は貧しい生活を強いられていました。家に電気はなく、水は共同の井戸からくみます。一間しかない小さな家に、両親と6人のきょうだいとともに、9人で暮らしていました。

レジルは、小さな時からがんばり屋で、先生に次の授業の内容をきいて、自分で予習をしていました。しかし家庭の経済状況では、7人のきょうだい全員が十分な教育を受けられる余裕はありませんでした。両親はなんとかレジルが勉強を続けられるようにと支援を希望しました。そして、レジルは学用品などの支援を受けて、勉強が続けられるようになりました。

支援開始当初のレジル。4年生には見えないほど小柄な体格でした。

ご飯を食べて、勉強にも集中できる

協力センターのスタッフがレジルの家庭を訪問した時に。

支援を受けるようになって、すぐに目に見えて変わったのは、レジルの健康状態でした。貧しいために栄養のある食事を十分にとることができなかったレジルは、身長も体重も平均値を大きく下回り、痩せていました。

レジルは、協力センターが実施する補食プログラムによって、栄養のある食事を定期的にとることができるようになりました。「きちんとご飯を食べて、勉強にも集中できるようになった」とレジルは話します。また、栄養不良のためレジルは病弱でしたが、協力センターのプログラムである定期健康診断や、病気になった時は医療品の提供を受けて、健康を維持することができるようになりました。

精神的な成長を支える

レジルは最優秀の成績で小学校を卒業し、ハイスクールに進学しました。レジルの暮らす地域では経済的な貧しさのため、ハイスクールに進学できず、小学校を卒業してすぐに働く子どもも少なくありません。

レジルは支援を受けながら、ハイスクールでも一生けんめい勉強を続けました。また、協力センターが行う自己啓発プログラムやサマーキャンプにも熱心に参加するようになりました。「自己啓発などのプログラムは、私に与えられたもっとも素晴らしい贈り物の一つです。この機会を与えられなければ、小学校やハイスクールでの時間はこれほど充実したものにはならなかったと思います」とレジルは振り返ります。

自分が成長するうえで自己啓発プログラムが非常に役に立った、と話すのはレジルに限りません。支援を離れ、大人になった元チャイルドたちが口をそろえて言うのは、自己啓発プログラムがなければ今の自分はいない、ということです。チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシップ・プログラムをもっとも特徴づけるのが、チャイルドたちの内面的な成長を促す、自己啓発プログラムです。

自己啓発プログラムとは?

貧しい地域で生まれ育った子どもにとって、生き方の手本となる大人は、自分の両親や、地域の人々しかいません。小作農や日雇い労働者として貧しい生活を送っている両親に育てられた子どもは、おのずと、自分も同じような人生を歩むのだと思うようになります。

そのような子どもたちには、自分で未来を切り開くことができるということに、気付いてもらうことが大切です。自分の価値を認め、自分の能力に気付き、自信を持つこと。自己啓発プログラムは、チャイルドたちの内面的な成長を支えます。教育や保健・栄養プログラムへの支援だけでは難しい子どもたちの精神的な成長を支え、積極的に生きる姿勢を育むことを、自己啓発プログラムが担います。また、家族やまわりの人々と協調的な関係を築くことや、リーダーシップを強化することも目的としています。

日本の教育制度の中では、「道徳教育」に一番近いかもしれません。ただし、自己啓発プログラムの具体的な形態は多様です。例えば、チャイルドたちが集まり、円を作って座り、ディスカッションをする活動もあります。自分たちで子どもの権利についての演劇を創る活動もあります。協力センターのスタッフや外部の専門家がセミナーを行う活動もありますし、みんなでゲームをするようなレクリエーションに近いものもあります。何を目的としているかによって、様々な形態の自己啓発プログラムが行われています。

演劇を通じて自己表現を学ぶことを目的とした自己啓発プログラム。

最終的な目標は地域の自立

スポンサーシップ・プログラムの最終的な目標は、地域が支援から自立することです。支援がなくても、自分たちの力で生活を切り開いていけること。そのために、スポンサーシップ・プログラムは、チャイルドの両親への職業訓練や、地域の住民組織の強化など、地域の生活を改善するための支援を行っています。

レジルが一生けんめい勉強に取り組んだハイスクール時代、レジルの母親は、協力センターが実施する収入向上プログラムに熱心に参加し、技術訓練や会計、リーダーシップなどの研修を受けました。このような研修の後、レジルの母親は、学んだことをいかして自分で裁縫の仕事をはじめました。かぎ針編みで小物などを作って販売する仕事です。収入は多くはありませんが、父親の不安定な収入だけでは苦しかった家計を支えることができるようになりました。レジルも時間があるときは裁縫の仕事を手伝っています。

貧しいながらも７人の子どもたちを育て上げたレジルの両親

教育を支援することは、子どもの将来を変えること

フィリピンなどの発展途上国では、勉強したいと望んでも、貧しさのため、学校に通うことができない子どもがいます。貧しい家庭では子どもも重要な労働力としてみなされ、小学校を卒業してすぐ（あるいは小学校を中退して）、生活のために働かなければならないこともあります。家事の手伝いやきょうだいの世話で忙しく、学校に通えない子どももいます。

しかし、十分な教育を受けていなければ、条件がいい仕事に就くことはできません。ハイスクールを卒業していなければ就ける仕事も限定されます。貧しいから学校に行けない、学校に行けないから貧困から抜け出せない。その悪循環を断ち切るためには、教育を支える必要があります。子どもの教育を支援することは、子どもの将来を変えることにつながります。

最優秀の成績で小学校を卒業したレジルは、ハイスクールでも優れた成績を維持し、2年生の時は学年1位の成績をおさめました。フィリピンで実施するスポンサーシップ・プログラムでは、チャイルドの成績が優秀で、家庭が大学進学を理解し、協力することを約束したチャイルドには、大学や職業訓練校での奨学金を提供する制度があります。レジルはこの制度を活用して、大学に進学することを目指すことにしました。もちろん、奨学金がなければ大学に進学する余裕は家庭にはありません。大学入学と奨学金、この2つを目指して、レジルはより一層熱心に勉強しました。

そして、無事、大学の土木工学科に合格することができました。「努力が報われて嬉しかった」とレジルは振り返ります。チャイルド・ファンド・ジャパンも、レジルの成績と努力を認め、奨学金を提供して、引き続きチャイルドとして支援を続けることを決めました。こうしてレジルは大学で勉強を続けることになりました。

設計図を見直すレジル

大学では家屋や社会インフラなどの設計を学びました。特に、台風や洪水による被害を軽減する防災のシステムを専門とし、研究を行いました。また、大学に入ってからも協力センターの活動にたずさわり、年下のチャイルドたちに補習クラスで勉強を教えることもしていました。

そして、大学の課程を修了し卒業することができました。大学卒業後に、土木技師の国家試験にも合格し、資格を取得しました。このことを報告するためにレジルは、スポンサーに最後の手紙を書きました。

土木技師として
活躍するレジル

支援を離れたあと、
協力センターのスタッフとの久しぶりの再会

お元気で過ごされていることと思います。今日は、うれしいご報告があります。私は、土木技師の国家試験に合格し、資格を取ることができました！スポンサーさんの支えがなければ、合格は不可能でした。私へのご支援をずっと続けてくださったことに感謝いたします。どれだけ感謝してもしきれませんが、この短い手紙で、私の思いを少しでもお伝えすることができればうれしいです。本当にありがとうございました！

スポンサーさんにお話を聞きました！

12年間レジルを支えたスポンサー、東横INN東西線西葛西の支配人（当時）、吉谷宏美さんにお話を伺いました。「レジルが土木技師の試験に合格したと聞き、とても驚きました。毎年送られてくる『成長の記録』に載っている身長と体重を見て、とても小柄な女の子だと感じていたので『土木の仕事ができるのかな』と心配になりました。でも、彼女からのお手紙を受け取り、自信に満ちた彼女の文章を読み、安心しました。

小学生の頃から努力していたことを知っていたので、土木技師の試験を受けるために一生けんめい勉強している姿がすぐ目に浮かびました。そして合格後に喜んでいる姿を想像すると胸がいっぱいになります。『レジル、合格おめでとう。よくがんばったね、今後の活躍もスタッフみんなで応援しているよ』と伝えたいです。レジルの成長を見守ることができたこと、本当に嬉しく思います。」

東横INN東西線西葛西の
スタッフの皆さんと吉谷さん。（当時）

チャイルド・ファンド・「アライアンス」とは？

チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年から、11の子ども支援団体から構成される国際的なネットワーク、チャイルド・ファンド・アライアンス*に加盟しています。加盟団体は、人種、宗教、性別、国籍を問わず、貧しい立場にある子どもたち、家族、地域住民の生活を改善するために世界の国々で活動しています。
アライアンス（alliance）は、「連合」や「提携」という意味ですが、具体的にはどのように連携しているのでしょうか？11団体が実施する支援の効果を最大化するため、子どもの参加を促し、子どもを守る取り組みとして、アライアンスは特に、「緊急支援」と「防災」の分野における協働に注力しています。アライアンスの連携について、2つの事例をご紹介します。

* http://childfundalliance.org/

ネパール大地震　緊急・復興支援

2015年4月25日にネパールで大地震が起きたその日から、アライアンス加盟団体から支援の申し出が相次いで届きました。私たちがネパールでこれほど大規模な緊急支援を実施することができたのは、日本の皆さまからの大きなご支援に加え、アライアンス加盟団体が自国で集めたご寄付をチャイルド・ファンド・ジャパンに送ってくれたからです。

世界中からネパールに届けられたのは温かいご寄付だけではありません。カナダやオーストラリア、韓国の加盟団体からはスタッフが派遣され、緊急支援のチームに加わってくれました。大規模な緊急支援の経験がなかったネパール事務所にとって、現場で即戦力となるスタッフの派遣は、心強く、迅速かつ適切な支援活動を進めるうえで、大きな支えとなりました。

2015年12月にはアライアンス加盟団体から、子どもの保護、安全・危機管理の分野の経験を有する人員が被災地に派遣され、緊急支援の中間評価が行われました。子どもたち、保護者、学校関係者の参加を得て、緊急支援への率直な意見を聞き取りました。また、現場の状況確認を経て、今後の活動でも活かすべき強み、注意すべき点、強化できる取り組みなどを確認しました。

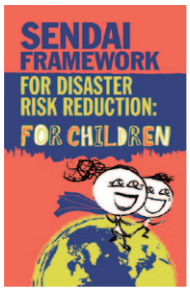
「仙台防災枠組」の子ども向け冊子が発行されます！

近年、異常気象は世界各地で多くの自然災害をもたらし、国連によると過去10年間で15億人以上が災害による被害を受けました。そのような中で、子ども、女性、障がい者などの災害弱者の保護が重要な課題となっています。

2015年3月、仙台において国連防災世界会議が開催され、「仙台防災枠組」が採択されました。この枠組では、災害弱者がおかれた状況をふまえ、世界各国が2030年までに取り組むべき防災・減災の課題が示されています。チャイルド・ファンド・アライアンスは、他団体*と協働して、仙台防災枠組を子ども向けに解説した冊子（英語版）を昨年末に発行しました。

* Save the Children、Plan、UNICEF、UNISDR、World Vision

災害から子どもたちを守るためには、子どもたち自身が自分たちにできることは何かを考え、意見を言って、主体的に地域の防災の取り組みに参加することが大切です。この冊子を通じて、こうした取り組みを支えていきます。



冊子の日本語版、「みんなの仙台防災枠組」が6月に発行されます！ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

Tel：03-3399-8123
E-mail：inquiry@chilfund.or.jp

支援プロジェクト 情報㉛

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

【フィリピン】
▶・みんなで守る子どもの権利プロジェクト
【ネパール】
▶・子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
▶・子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト

みんなで守る子どもの権利プロジェクト（フィリピン）

●協力期間:2014年8月1日～2017年5月31日
●支援対象:すべての協力センターに在籍するチャイルド約4,400人
●協力団体:チャイルド・ファンド・ジャパン・フィリピン事務所とすべての協力センター

2014年度より始まったこのプロジェクトは、チャイルド・ファンド・ジャパンがミッションに掲げている子どもの権利を守るために、チャイルド、学校、地域、センターが連携して様々な活動に取り組んでいます。

2年目にあたる2015年度は、すべての協力センターでチャイルドたち自身が、子どもの保護・参加を推進する活動を企画し、実施しました。

カビテ州にある協力センター35のチャイルドたちは、壁画を制作することに決めました。壁画を通じて、家族、学校、地域のリーダーや人々が、子どもの権利についての理解を深めることを目的としました。

まず子どもの権利について学ぶワークショップを行い、チャイルドたちはグループに分かれ、子どもの権利条約の4つの柱である、生きる権利(Survival)、守られる権利(Protection)、参加する権利(Participation)、育つ権利(Development) をイメージした下絵を描きました。この下書きをもとに、目立つ場所にある保健センターの壁に画を描きました。完成した壁画は、子どもの権利条約の4つの柱の意味それぞれが、絵で表現されています。

下書きを元に壁に絵を描いていく子どもたち

完成した絵

子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト（ネパール）
子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト（ネパール）

	子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト	子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト
協力期間	2011年4月1日～2016年3月31日	2014年4月1日～2016年3月31日
支援対象	ラメチャップ郡の支援地域の公立校に通う生徒と保護者、PTAと学校運営員会のメンバー	シンドゥパルチョーク郡の支援地域の公立校に通う生徒と教師、PTAと学校運営員会のメンバー、最貧困層家庭とその子ども
協力団体	RBPW（Ramechhap Business & Professional Women：女性と子どもの権利推進を目標に活動を行う現地NGO）	GMSP（Gramin Mahila Srijanshil Pariwar：女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO） TUKI（Tuki Association Sunkoshi：子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO）

学校教育の向上を目的として、ラメチャップ郡で「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」、シンドゥパルチョーク郡で「子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト」を実施しました。しかし、2015年4月に起きた大地震のため、緊急支援が主な活動となり、計画していた活動はほとんど実施できませんでした。その中で、以下の活動を実施しました。2015年は学校ごとにつくる学校向上計画書を見直す年にあたり、パートナー団体も参加して、生徒や保護者、教員、学校運営委員会のメンバーが、学習成果を高めるための計画を数日かけて議論し、新しい学校向上計画書が作られました。地震後の計画のため、大半は校舎の修復や再建、机や椅子の整備、教材やコンピュータや実験器具などの購入でしたが、中には不足する教員確保を計画に含めた学校もありました。

郡教育事務所やNGOなどが学校を支援する場合にも、この学校向上計画書をよりどころとするため、生徒と保護者の意見を大切にしながら具体的で現実的な計画書を作ることが求められます。また、11月20日の「世界子どもの日」に学校ごとにクイズ大会などを行い、子どもの権利に関して、生徒や保護者、教員の理解を深めました。

学校向上計画書をつくる会議

「世界子どもの日」のイベントでクイズの賞品を渡す

「活動報告会」のご案内

チャイルド・ファンド・ジャパンが行う活動やご支援の成果を支援者の皆さまに直接ご報告する会を以下の通り開催いたします。当日は、フィリピンとネパールから来日した現地スタッフが、子どもたちが生活する環境や、支援事業の内容についてお話しいたします。支援者の皆さまと交流する懇親会もあわせて開催しますので、ご家族やご友人の方をお誘いのうえ、どうぞご参加ください。事前にお申し込みをお願いします。

日　時	2016年6月25日(土)14時～16時30分
会　場	ウェスレーセンター2階 セミナールーム205号 東京都港区南青山6-10-11
アクセス	①地下鉄表参道駅(千代田線、半蔵門線、銀座線) B-1又はB-3出口より徒歩10分
	②渋谷駅より01系統の都バス(六本木ヒルズ、赤坂、新橋行き) 青山学院中等部前下車、徒歩3分
	http://wesley.or.jp/access/index.html
内　容	第一部　活動報告会　　第二部　懇親会
会　費	無料　※懇親会参加費500円

2015年11月に実施した
ネパール大地震活動報告会の様子

<お申し込み／お問い合わせ>
childfund@childfund.or.jp
03-3399-8123
(平日9時30分～17時30分)

お申し込み締切:6月20日(月)
定員:50名(申し込み先着順)

インフォメーション　コーナー

お知らせ　熊本地震で被災された皆さまにお見舞い申しあげます

4月14日に発生した熊本地震の被害にあわれた皆さまに、心からお見舞いを申しあげます。発生直後より、チャイルド・ファンド・ジャパンの海外事務所及びチャイルド・ファンド・アライアンス加盟団体からもお見舞いのメッセージが届いております。
皆さまが一日も早くもとの生活を取り戻し、安心して過ごすことができますよう、お祈り申しあげます。
チャイルド・ファンド・ジャパンは熊本地震への緊急支援を実施しています。2度の大きな地震がともに夜に起こったため、夜になると怖がり、眠れなくなる子どもたちもいます。チャイルド・ファンド・ジャパンは、保護者の方がスマホなどで手軽に読むことのできる「安心ガイド」の制作など、「子どものこころのケア」を中心とした活動を実施しています。緊急支援についての詳細は、ウェブサイトでご紹介しています。

チャイルド・ファンド・ジャパン　熊本　検索

ご報告　「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーンのご報告

事務所のある杉並区民の皆さまからの書き損じハガキや未投函のハガキ、未使用の切手を活用して、ネパールに学校を建てることを目的とした「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーン第6弾。皆さまからご協力いただき、952,492円分のご寄付となりました。心よりお礼申しあげます。お送りいただいたハガキや切手は、シンドゥパルチョーク郡にある学校の校舎建設のため、大切に活用いたします。

お知らせ　チャイルドと家族が自立を迎えました

フィリピンの協力センター42は、チャイルド・ファンド・ジャパンとセンターとの協議の結果、2016年5月末で地域への支援を終結することに合意しました。今後は地域の人々が主体となり、教育支援や定期健康診断などを実施し、子どもたちの成長を見守り、自らの力で地域を支えていきます。これまでの皆さまの大きなご支援に深く感謝いたします。

ChildFund Japan　Vision Mission

**チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に
基づいて活動します。**

ビジョン(目標)
すべての子どもに
開かれた未来を約束する
国際社会の形成

ミッション(使命)
生かし生かされる
国際協力を通じて
子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス　ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

<チャイルド・ファンドだより SMILES(スマイルズ)> 2016年5月発行
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
理事長／髙田和彦　事務局長／和山正秀
TEL. 03-3399-8123　FAX. 03-3399-0730
E-mail:childfund@childfund.or.jp
URL:https://www.childfund.or.jp/

〈デザイン〉
モスデザイン研究所
〈印刷〉
有限会社東西印刷
PRINTED WITH SOYINK 大豆油インキを使用